資料 12

「わが国の病院における

診療録管理の現況

（第２回）」

全国調査〔1999年（平成11年）実施〕の結果とその分析

調査・編集：日本診療録管理学会
診療録管理の現況調査委員会

木村　明（新潟市民病院　名誉院長）
田原　孝（国立肥前療養所　精神科医長　医療情報室長）
入江　真行（和歌山県立医科大学　先端医学研究所　医学医療情報研究部助教授）
阿南　誠（国立病院九州医療センター　統計病歴係長）
大津　淑子（大阪府立病院　病歴室　診療情報管理士）
枝光　尚美（大阪府立母子保健総合医療センター　企画調査部　診療情報管理士）
小坂　清美（日本生命済生会附属日生病院　病歴図書室　診療情報管理士）
小林　智彦（姫路聖マリア病院　医事課病歴管理係　診療情報管理士）
三村　智子（新潟市民病院　診療情報部　診療情報管理士・調査委員会事務局）

16. 診療録保存年限が現行5年から更に延長した場合の対応（設問42）

図127

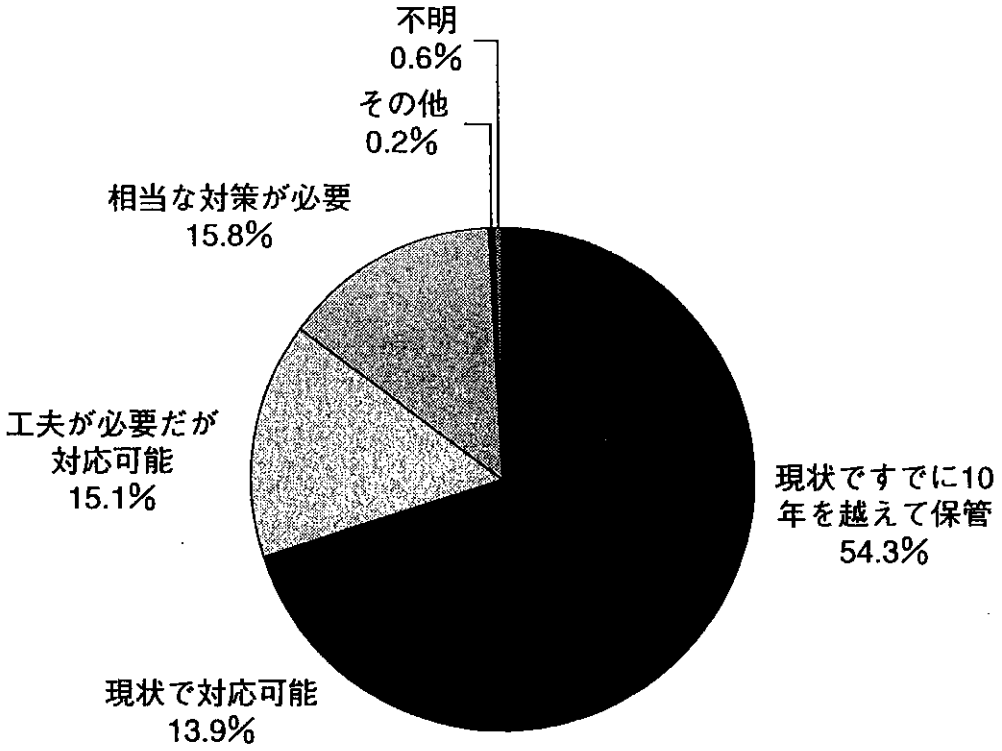

表76　診療録の保管義務年限が現行の5年から10年に延長した場合

	件　数	構成比率
現状ですでに10年を越えて保管	538	54.3%
現状で対応可能	138	13.9%
工夫が必要だが対応可能	150	15.1%
相当な対策が必要	157	15.8%
その他	2	0.2%
不明	6	0.6%
計	991	100.0%

基本的に現状でも法定の保管期限では不十分だという感覚が支配的であり、かつ、HIV禍の影響などもあるためか、保存年限を医療機関独自にのばす傾向があると思われる。結論から言えば、それなりの工夫が必要ではあるとはいうものの、ほとんどの医療機関でそれほど問題ではないということになる。つまり、すでに10年以上おいているために保存年限の延長は、現状を追認するものになる可能性が高い。

17. 診療記録現物保管以外に採用している保管方法（設問43）

図130

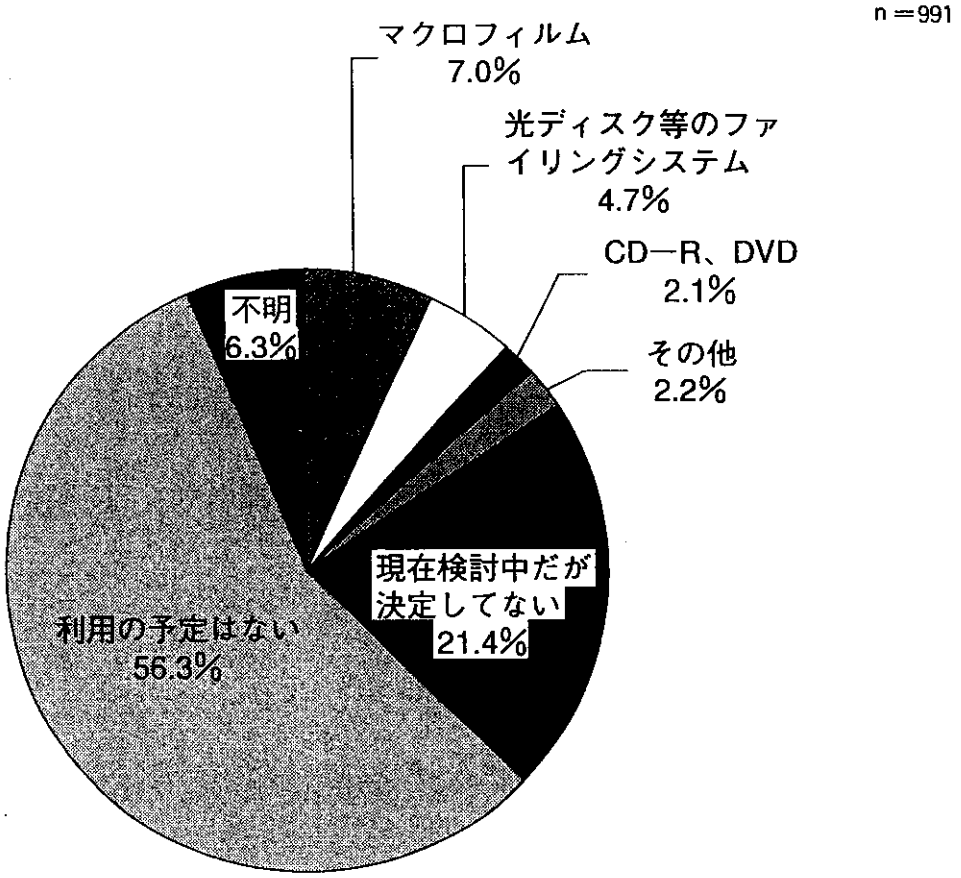

表77　診療記録の現物保管の他に採用している記録保管方法があるか

	件　数	構成比率
マイクロフィルム	69	7.0%
光ディスク等のファイリングシステム	47	4.7%
CD-R、DVD	21	2.1%
その他	22	2.2%
現在検討中だが決定していない	212	21.4%
利用の予定はない	558	56.3%
不明	62	6.3%
計	991	100.0%

基本は現状では現物保存を支持する意見が多数派である。さらには、コンピュータファイリングの進歩は大きなものがあり、今後はより多くのバリエーションが現れて来るであろう。また、診療録などの電子保存を認める通達が出たことから、今までと異なる速いペースで圧縮保管方法が広まることになるであろう。